

また終戦記念日が来た。私が登山のトレーニング・コースとしている小仏城山への高尾駅からのバス路線の途中（蛇滝口バス停）に太平洋戦争中の惨事に関わる慰霊碑が建てられていて毎年慰霊祭が行われている。

昭和20年8月2日、約170機のB-29爆撃機が八王子市上空に飛来して焼夷弾67万発を投下、市街地の80%が消失し、約450名が亡くなった。この被災で中央本線は運休となったが8月5日には再開して、8両編成の長野行の列車は満員の状態で新宿駅を午前10時10分に出発した。



JR 高尾駅（旧・国鉄浅川駅）

八王子駅に停車中の11時15分に警戒警報が発令されたが、11時20分頃に出発したと考えられている。

11時30分頃、浅川駅（現・高尾駅）に到着すると警戒警報が空襲警報に変わったため、一旦は乗客を降ろして避難させた。しかし、浅川駅を出発すれば、あとは山間部でトンネルもあり、戦闘機は攻撃してこないだろうと判断したようで、空襲警報は発令されたままであったが、避難させていた乗客を乗せて12時30分頃に相模湖駅方面へ出発した。列車は窓にぶら下がる人が居るほどの満員状態であったとのこと。

浅川駅から間もない湯の花トンネル（中央自動車道と圏央道のICの下に位置する）の手前に差し掛かった時、八王子方面から飛来した米海軍戦闘機P-51の2~3機が機銃掃射してきた。列車はトンネルに逃げ込んで停車したが、トンネルの全長は162mしかなく3両目から後の車両はトンネルから外れていたために戦闘機の銃撃を受けてしまい、死傷者900名以上（内死者は52~65名と不確か）という列車銃撃事件として該戦争中最悪の被害となってしまった。



湯の花トンネル（新井踏切から）

戦局が厳しくなり、兵士として出征する男性の代りに女性事務員がこの列車の車掌として携わっていたが、浅川駅で苛立つ乗客から「早く列車を出せ」と怒鳴られたとのこと。この女性は終戦後に国鉄を退社している。

上野駅近く(下谷区西町)に住んでいてこの年の3月に焼け出された当時7歳の私も上野駅から千葉県茂原駅へ、そこから群馬県安中駅へ満員列車での移動を経験しているので、浅川駅での苛立った雰囲気は十分に想像でき、開放された窓から飛び込んで来る蒸気機関車の噴煙の微粒子が目に入って、お袋から「こすっちゃ駄目！」と注意されたことを覚えている。

これが最期と悟った親父が防空壕の板戸を開けて見せてくれた満天下の真っ赤な焼夷弾(これらは上野上空から風に流されて向島方面が被弾した3月10日の東京大空襲)、被弾してひん曲がった市電のレールや散乱物を縫い乍らランドセルを背負って逃げ回ったことなどが次々に甦った。

余談だが、上記東京大空襲をなんと向島で経験したという同年齢のゴルフ仲間がおり、その時彼が満員で入れなかった防空壕が被弾して、その中に居た全員が亡くなってしまったとのことだ。運命斯くあるかな…。合掌

<追記>国鉄命名の《湯の花トンネル》に対し、慰霊の会は「猪ノ鼻山に掘られたトンネルを後世に伝えたい」として、会の名称を《いのはなトンネル列車銃撃遭難者慰霊の会》としたのには国鉄への忖度が垣間見え、さらに、この付近は荒井という地名だが、国鉄はトンネル傍の踏切に《新井踏切》と名付けているのには当時の国鉄の尊大振りが窺える。

なお、当時単線であった中央本線は、猪ノ鼻山にもう一本のトンネルが掘られて複線となっている。



新井踏切とインターチェンジ



遭難者慰霊碑